



庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ツツジ ～

日本樹木医学会富山県支部
樹木医 西村正史

サクラの花が終わる4月下旬から5月中旬にかけて、庭、公園、街路では、色鮮やかな赤や桃色あるいは白い花を咲かせるツツジが目立ちます。ツツジはツツジ科ツツジ属の総称で、野生種や多くの園芸品種が含まれる常緑広葉樹の低木です。

今回は、庭木等に向いているツツジの園芸品種のいくつかを紹介します。

1 特性

一般的に樹勢が強く、あまり土質を選ばないので、どこでも育ちますが、日当たりがよく、保水性のある排水のよい酸性土壌（pH4.5～5.5）を好みます。代表的な園芸品種は以下のとおりです。

1-1 オオムラサキツツジ

江戸時代から栽培されている園芸品種です（写真1）。移植が容易で、大気汚染に強く、萌芽力が旺盛で剪定に耐え、土地を選ばないという特徴があり、道路緑化などに多用されています。

1-2 クルメツツジ

江戸末期以後に久留米で改良された品種群です（写真2）。小輪多花性で、開花期には樹冠全体が花に覆われるように咲き、乾燥に強く、庭木として広く利用されています。

1-3 キリシマツツジ

鹿児島県霧島の自生種から江戸時代に選抜された有名な庭園用の園芸品種です（写真3）。

1-4 リュウキュウツツジ

白色のツツジの代表種です（写真3）。

丈夫で耐寒性にすぐれ、日本各地で広く庭園等に植栽されています。和名の由来は、琉球を經由して広まったことからきていると言われています。

2 管理

植栽する前にツツジの生育特性を考慮して植栽すれば、問題なく管理することができます。しかし、注意すべき点がいくつかあります。

1つ目は、整枝剪定が遅くなると、翌年の春に咲く予定の花芽を切断してしまうので、花が咲きません。対策としては花が終わった後すぐに剪定することです。

2つ目は、葉を食べるルリチュウレンジと葉を吸汁するツツジゲンバウムシが発生しますので、スミチオン乳剤等で対応してください。

3つ目は、褐斑病や斑点病が発生します。病気の場合は予防が大切ですので、トップジンM水和剤等の殺菌剤で対応してください。時々、もち病が発生しますが、これは取り除いてください。

なお、写真1～3はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



写真1 オオムラサキ（左下は花の拡大写真）



写真2 クルメツツジ（左下は花の拡大写真）



写真3 キリシマツツジ（左）とリュウキュウツツジ（右）